

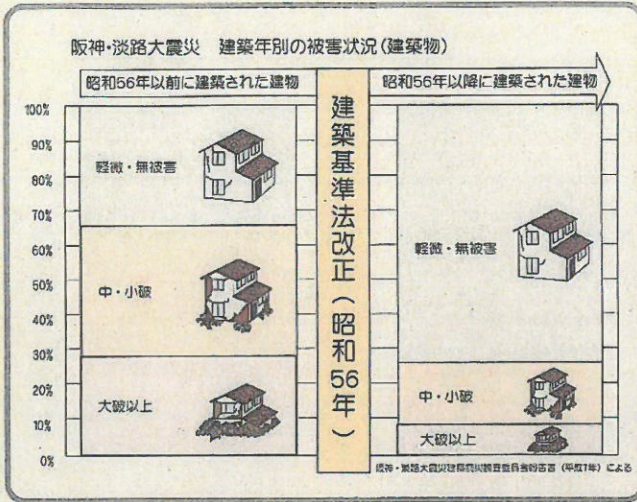
家族の命を守るために

0-1

地震から家族の命を守るためにしておくこと

家

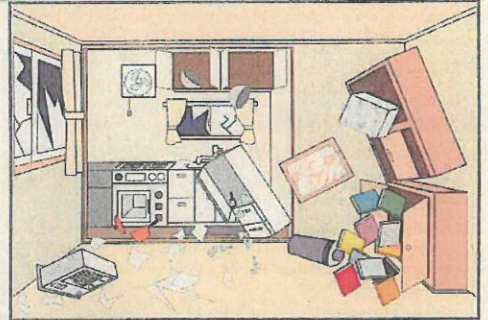
就寝中に地震が起きてもあなたの家は家族を守ってくれますか？
地震の後、帰る家はあるでしょうか？



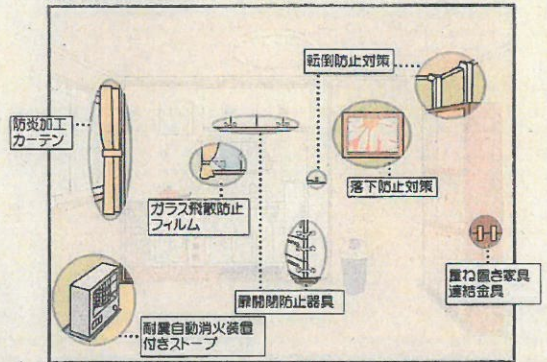
阪神・淡路大震災では、昭和56年以前の建物に多くの被害がみられました。
自宅がいつ建てられたかを確認しましょう。

部屋

あなたの家の中で地震の時に家具等が倒れてこない安全なスペースはどこですか？



安全なスペースの確保は子どもの事故防止にも役立ちます。



0-2

こどもと決めておくこと

大きな地震が発生したときの行動は？

幼稚園・学校にいるとき	先生の指示に従う。 集団下校する、保護者の迎えを待つなど学校に確認し、こどもと約束しておく。
登下校中	家に帰るか、学校に行くか決める場所は？
こどもだけで留守番中	誰に連絡する？ 自宅が危ない時はどこに避難する？
こどもだけで外出中	まず自宅へ帰る。 行動範囲内の津波浸水域を知っておく。 自分の家に帰れないときは、どこに行く？

登下校中など、子どもが1人で行動しているときの地震に備えて身元確認や保護者への連絡先を記入したカードを持たせておきましょう。
* 平常時は、落としたり他人に見られたりしないように注意しましょう。

津波浸水・火災などに備えて家族の集合場所を決めておく。

道路の寸断、保護者自身のケガなどで、すぐに子どもを迎えに行けない場合があります。

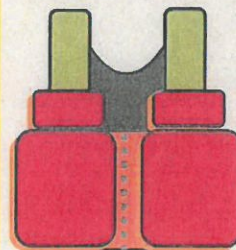
家族を捜してもらおうのために、顔がはっきりとわかる写真を持っておく。

電話が不通になっても、メールを送信できる場合があります。

防災ベスト

避難の際には両手が自由に使えるようにリュックサックなどに荷物を詰めておきましょう。

釣り用ベストのように大きなポケットがたくさんついたベストに子ども用の非常持ち出し品を入れておけば、子どもでも自分の荷物を運びやすくなります。



- ポケットに入れるもの
- サバイバルブランケット (防寒シート)
 - 簡易トイレ
 - ウェットティッシュ
 - 軍手
 - マスク
 - 小型懐中電灯と電池
 - 緊急連絡カード
 - 食糧・おやつ
 - 飲料水
 - ビニール袋
- など

- 利点
- 重さを感じにくい
 - 両手の自由が利く
 - 胸や背中を防護できる
 - 洋服と一緒にかけておけばすぐに持ち出せる